

# アウトウジョイント V 字トレリス栽培の果実生産性

福島県農業総合センター 果樹研究所 栽培科

## 1 部門名

果樹—アウトウ—栽培

## 2 担当者

安達義輝・桑名篤・三田村諭・南春菜・渡邊善仁・増子俊明

## 3 要旨

果樹生産の省力化に向け、多樹種での樹形共通化を想定したジョイント V 字トレリス栽培(JV 栽培)法を検討中であるが、アウトウ JV 栽培の定植3年目収量は 108 kg/10a で、慣行栽培(遅延開心形)の約 3 倍であった。

(1) オウトウ JV 栽培樹は、地上 80 cm で主枝を水平誘引して隣接樹の基部とジョイント(接木)し、側枝を概ね仰角 60° の平面に配置する列状密植樹形である(図1)。樹高は概ね 230 cm 以内とし、結果枝配置は地上 100~200 cm とするため、脚立を使用する必要がなく、作業姿勢の改善や作業動線の直線化による作業性の向上と労働時間の短縮が期待できる。

(2) オウトウ JV 樹形の樹冠占有面積は、定植3年目にほぼ成園相当となった(図2)。

(3) 定植3年目の収量は 108kg/10a で、慣行栽培の約 3 倍であった(表1)。果実重は慣行に比べ大きく、糖度等の果実品質に明瞭な差は認められなかった。

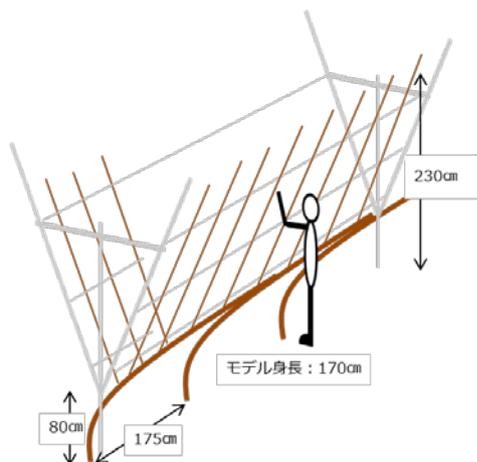


図1 オウトウ JV 樹形のモデル図

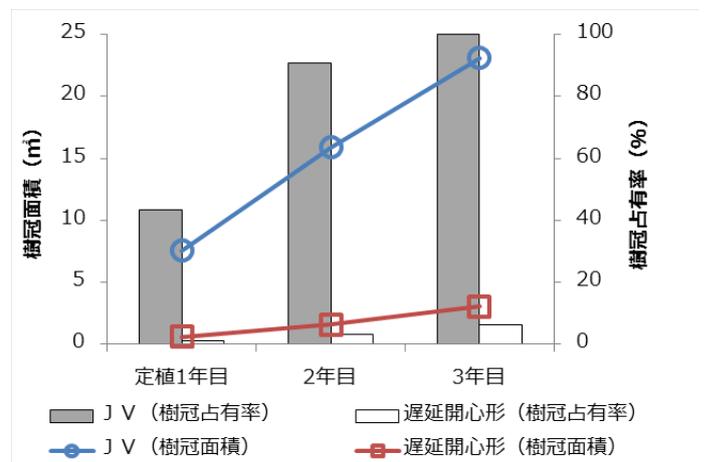


図2 オウトウ JV 樹形の樹冠拡大の推移

表1 オウトウ'佐藤錦' JV 樹形の収量および果実品質

	収量 kg/10a	果実重 g	糖度 °Brix	果汁 pH
J V	107.9	8.2	23.7	3.82
遅延開心形	34.8	7.4	23.3	3.72
F値 <sup>z</sup>	10.11 *	17.19 *	0.37 ns	6.63 △

<sup>z</sup>: \*, △は、f検定において危険率 5%、10%水準で有意差あり。nsはなし。

## 4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成 28 年度~30 年度
- (2) 研究課題名 果樹のジョイント栽培等新技术の導入による革新的栽培技術体系の確立
- (3) 参考となる成果の区分 (発展見込)

## 5 主な参考文献・資料

なし

(活用した事業名: 農林水産省: 革新的技術開発・緊急展開事業(うち先導プロジェクト・人工知能未来農業創造プロジェクト))